



# 雄 飛



向陽高校進路便り 第53号  
平成30年 11月19日(月)  
～進越超信～

23期生センター試験まで

**61!**

## 進路希望調査 2学年結果

第1回 4/10		第2回 10/04	
1. 希望進路		1. 希望進路	
県内国公立大学	106	→ 県内国公立大学	102
県外国公立大学	90	→ 県外国公立大学	94
県内私立大学	0	県内私立大学	5
県外私立大学	7	県外私立大学	5
短期大学	1	短期大学	1
専門(専修)学校	1	専門(専修)学校	1
就職	2	就職	2
留学	3	留学	3
進学先未定	24	→ 進学先未定	20
進路未定	5	進路未定	3

単純な比較はできないが、県外国公立希望が微増して、県内国公立が微減している。県内私立も一気に増えたが、進路研究の成果?なのか、ただの勉強に対する諦め?なのかがはっきり分らない。相談は早めに担任の先生 or 進路部へ!

日本人が選びがちな「まあまあ」な結果。「ほとんどの教科で分からない」が0名なのは、努力が垣間見える!素晴らしい。

第1回		第2回	
14. 授業内容		11. 授業内容	
よくわかる	54	よくわかる	49
なんとなくわかる	161	→ なんとなくわかる	155
わかりにくい教科が多い	20	→ わかりにくい教科が多い	31
ほとんどの教科でわからない	2	ほとんどの教科でわからない	0

「授業についていけない不安」という、学習速度への不安感を強く持っている生徒がクラスに4,5名居る。やるべきことを各教科で提示され、この先の受験へと進むことに心配しているようである。どの項目も悩みは深まっているが、「家庭学習の不足」や「集中力がない」の急増も気になる。集中力がないのは何が原因なのか?各自で意識して考えよう。答えはそれぞれが持っているはずです。

1年時第2回		第2回	
16. 勉強の悩み		15. 勉強の悩み	
授業についていけないという不安	2	授業についていけないという不安	25
基礎学力不足	51	→ 基礎学力不足	66
勉強の方法がわからない	12	勉強の方法がわからない	16
家庭学習の不足	5	→ 家庭学習の不足	26
集中力がない	9	→ 集中力がない	49
部活動との両立	5	部活動との両立	6
友人付き合いとの両立	0	友人付き合いとの両立	1
身体の不調	4	身体の不調	0
家庭環境	0	家庭環境	0
勉強するのに伸びない	2	勉強するのに伸びない	16

第1回		第2回	
13. 現在の学習へのやる気		9. 学習に対するモチベーション	
とてもやる気がある	60	→ とてもやる気がある	46
少しやる気がある	131	→ 少しやる気がある	131
前と変わらない	28	前と変わらない	32
少しやる気がない	15	少しやる気がない	21
とてもやる気がない	4	→ とてもやる気がない	5

まあまあの結果だけど、やる気の無い層もじわじわ増えている... 学校来るのもつらいはずね。一度相談してみよう!

30. 通学中の活動	
家族や友人と会話	21
音楽を聴いている	92
スマホでSNSやゲーム	5
単語などを暗記	21
寝ている	37
特に何もしていない	40
寮生、自転車通学	19

34. 充実感のあるとき	
起床・登校	2
授業中	22
休み時間	47
部活動時	37
塾・習い事・地域での活動	2
下校・就寝	56
自分の部屋で過ごす時間	46
特になし	13

まあ…そういうもんよね高校生、という結果。通学中は音楽を聴いている層が90名を超えるというのも、今のご時世ならでは。休み時間や自分の部屋では「今日も頑張ったぞ」の充実感なの？

33. 1ヶ月の読書冊数	
10冊以上	6
5～9	2
2～4	35
1冊程度	52
全く読まない	139

24. 休日のスマホ利用時間	
30分以内	7
1時間以内	25
1～2時間	63
2～3時間	79
3～4時間	30
4～5時間	6
5～6時間	8
6時間以上	3
ほとんどしない(持ってない)	4

1ヶ月に本を1冊も読まない生徒が過半数です(驚愕) …大学行って何するの? バイトとサークルだけする所と思ってたりする? スマホのつきあい方は1年生よりはコントロールできて…いる? よう。Keep on!

## 読む本でバレる『一生、成長しない人』の欠点

大事な点は「時間があるかどうかに関係なく、仕事がデキる人は忙しい合間をぬって本を読んでおり、デキない人はたとえ時間があっても、本を読まない」ということだ。読書も一事が万事で、仕事がデキるかどうかの「仕事のIQ」は、読書習慣ひとつ、読む本ひとつに如実に表れてしまうものだ。

竹中平蔵は、大臣時代の激務の中でも毎日2時間、必ず机に向かって読書に費やすという読書習慣を持っている。

大人になってからまったく勉強しなくなる人が多い中、竹中は誰よりも勉強熱心で、常に進化・成長していく。世界中の二流の人々に宣告するが、**忙しいことを、本を読まない言い訳にしてはいけない**。逆説的だが、忙しければ忙しいほど、読書量を確保している人が世の中には多い。逆に、「どこからどう見ても暇な人」に限って、**本も読まないものだ**。

仕事がデキない二流の人は総じて、会うたびに「進化」がなく、数回会うと、飽きて話題がなくなる。「山は遠くから見たほうが立派」というか、二流の人はいざ近づいてみると、いとも簡単に登れて、あっという間に登頂できてしまうのだ。

人は**知識のストックよりも、その人の変化率に興味をそそられる**ものだ。そもそも知識がすぐ陳腐化する現在、「常に新しいことを学びつづける習慣」こそが、大きな差を生むのである。そしてこの「常に学びつづけ、成長する習慣」の有無は、まさに**その人の読書習慣と連動している**といっても過言ではないのである。

普通のビジネスパーソンなら、「仕事で必要な知識」を身につけるために本を読むことはあるだろう(三流の人になると、それさえもせず「ネットで調べてわかった気になるだけ」か、ネットにしか活動場所のない“似非学者”および“二流評論家”に瞬間に洗脳される人も多いのかもしれない)。このような「三流の人」の特徴は、「自分の仕事や専門分野以外の話」になると、まるでトンチンカンなことをいい、まさに平均以下、ワイドショーレベルの話しかできないことだ。

それに対して一流の人ほど、たとえ会話や議論が多岐にわたろうとも、どの話題についても鋭い見識を披露するものである。「他人の土俵で相撲をとれるようになれ」と言う言葉は、専門分野や仕事だけに没頭していると視野と世界が小さくなることへの戒めでもある。特定分野に特化した知性ではなく、**幅広い教養や人間としての品性を読書によって磨く**ことが、一流の政治家にとってもビジネスパーソンにとっても重要なのだ。